

平成 2 5 年 第 1 0 回 教 育 委 員 会 会 議 録

招 集 年 月 日	平成 2 5 年 5 月 1 4 日
招 集 場 所	役場 第 3 会 議 室
開 会	1 1 時 0 0 分 委 員 長 宣 告
出 席 委 員	井上教育委員長 立脇教育委員 福田教育委員 川上教育委員 内田教育長
欠 席 委 員	
教 育 長 の 報 告	<p>別紙資料による</p> <p>○報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合グラウンドガラス破損 <p>○行事予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日南小学校運動会 ・ 全国植樹祭 ・ 小学校企画訪問 ・ 第 1 1 回教育委員会 ・ 中学校企画訪問 ・ 県市町村教育委員会連絡協議会総会・研修会

議 事 日 程		
議 事 の 経 過		
日 程 そ の 他	発 言 者	発 言 の 要 旨
日程第1 議案第30号平成25年度 保護児童生徒の再認定・再判定について	委員 長 教 育 長 事 務 局 委員 長 委員 委員 長	日程第1議案第30号について説明を求める。 日程第1議案第30号平成25年度準要保護児童生徒の再認定・再判定について承認を求めるもの。 ※資料に基づき詳細説明 説明があつたが、質疑はあるか。ないようなら承認してもいいか。 はい。 日程第1議案第4号について承認する。
その他	委員 長 委員 長	教育委員研修会について、日野町の教育委員会が中心となりやっていくということが決定している。内容として、日野高校問題やコーディネーター配属の件について。もう一点は教育委員会制度の改革についての話し合いが行なわれる予定である。 例えば、日野高校の校長に来ていただいて、教育委員と一緒に話しをするというような、話し合いの場を設けるのはどうかという話しが出ている。そのあたりのことも併せて、ご意見を伺いたい。

<p>教育委員会制度の改正について</p>	<p>委員 長</p>	<p>町村の教育委員会としては、抱えている児童生徒がいずれは地域の高校へ行くわけだから、教育委員会として教育委員として、いろいろ意見を発言したり、意見を聞くということは大事なことだと思う。</p> <p>新しい教育委員会制度になってから、教育委員と教育長の関係が変わってくるのが考えられる。方向をはっきりさせる、チェック機能を果たす、この2つが新しい制度になったときの教育委員の役割として案が出されている。そのあたりについて、ご意見をお聞きしたい。</p>
	<p>委員</p>	<p>教育委員の任命の方法をどのように考えるかということについて、私は今の状態で差し支えないと考えている。</p>
	<p>教育 長</p>	<p>諮問の中にある教育委員の任命の方法をどのように考えるかについて、教育再生実行会議での提言というのは教育長が任命しなさいと書いている。それに対して地方6団体は大反対している。任命をする場合に、教育長か首長かということが問われている。</p>
	<p>委員</p>	<p>首長が委員を任命するとなれば、首長の意のままの教育長が誕生し、首長の意に沿うような委員を任命してしまう。委員の形骸化とか或は方向性を示すとかチェックするという機能は全く期待できない事態も起こりうると思う。町長が変わるたびごとに安定性どころじゃない、継続性も期待できない。危険な状態が生じかねないと思う。</p>
	<p>委員</p>	<p>一般的に冷静に考えれば、おかしいと大半の人が考えている。しかし、首長側からみれば選挙までして当選しているのだからという考えがある。本当は問題点をどんどん言うべきだと思っている。</p>
	<p>教育 長</p>	<p>世論の半分は選挙で選ばれた首長が全部決めるべきだ、辞めて新たになれば全部クビになって変えるべきだ、という論調が1つ。それに対して、いろんな囲いの中で混ぜこぜになっているからこそ、政治的な中立だとか独自性というものが、この教育委員会は取れている。だから今のシステムが良いというのがもう1つ。首長が県や国と同じ姿勢でやることによって、教育再生実行会議みたいなルールを引かれてしまう。それではいけない。この2つの論議については、どう思うか。本来教育委員会はどうあるべきかという話しをした時に、どっちがいいのか。</p> <p>今は、すべて首長に権限がある。町の場合は首長が任命していると思うが、市の場合はほとんどが教育長から首長の方に人材推薦がなされていると聞いている。そうしない人事が回らない現状がある。そこで首長と教育長とが上手いのか、</p>

		いかなければ、難しくなってくる。
委 員 長	教育長	教育長が人選する時に、人選の中での考え方として、教育長と意見が合う人を選ぶのか、それともある程度違う意見の人を選ぶのか。
教 育 長		職歴などを見た上で、やはり同じ様な人を選ぶと考える。違った人というのは少ないと思う。 考えの違う人材を入れないのか、という話しが今避難を浴びている。やはり違う意見がある中で教育委員会というのは構成しなければならない。
委 員 長		同じ意見の人ばかりを集めているから、今の形骸化した教育委員会というものが続いている。今度は教育委員から教育長は外れることになっている。5人の教育委員の中に異質な人材を入れなければ、チェック機能を果たさなくなる。教育行政のトップである教育長と教育委員のこの会とはかなり違う形になっていく気がする。 若い人材を登用しようにも、王やけの会議に出席する時間もない状態では、制度を変えても今の状況と何も変わらない。
委 員	教育長	人材不足の話しになってくる。このエリアだけで考えると、前委員が言われた通りである。
教 育 長		小地域ではそうかもしれないが、改正している大本はもっと大きいことを考えていると感じる。様々な人を入れて、チェック機能や色んな考え方を、行政へ反映させるような仕組みを作ろうとしているのだろうと思う。
委 員 長		色んな人材を求めるような方向での、教育委員の選任なり教育委員会制度ということにしていけないといけないことは間違いない。首長が代わったから、全員が代わるという話しをしていてもいけない。
教 育 長		結果的にチェック機能も、或は方向性を教育長に進言するということも難しいのではないかと心配している。非常勤という状況の中で、情報が入ってくるのにも限界がある。任免権を持っている教育長の考え方によって、教育委員会の良し悪しが決まってくると考える。情報の集まりにくい教育委員会は、期待するほどの機能を果たさないのではないかと心配している。 非常勤だけでも、教育委員として求められる活動を報酬の部分でカバーするということを考える時に、どのくらいあればもっと本気にやろうという気になれるのか。私は、これは1つの検討事項だと思っている。
委 員		私も大事なことであると思う。町会議員ぐらいの給料を払えば、やろうかという人も出てくると思う。 教育委員のあり方ということの糸口としてこういう話しも必要だと思う。
委 員		
教 育 長		

道州制問題について	委員	長	行き着くところは、教育委員も公選制しかないと思う。そうなると全然変わってくるが、難しい問題も出てくる。
	委員	員	今の段階で、報酬を上げるからもっと出て来いと言われても、出れない人もたくさん出てくると思う。
	委員	長	私たちが心配しているのは、首長の権限がどこまで強くなるかということだ。教育の内容にまで入ってくるといろんな問題が起こってくる。例えば教科書の採択についても首長の一言で決まれば、地域の教育が変わってくる。
	教育	長	首長が入ってくることよりも今心配しているのは、国が教科書の採択などの部分にまで出てくる方向に、検討されつつあることだ。
	委員	長	道州制問題について説明を求める。
	教育	長	道州制について、都道府県でも賛成派と反対派で真二つに分かれている。鳥取県の場合は1区と2区中部を分担して2の基礎自治体にするということが、この道州制の基本的な考え方である。国と基礎自治体の2層化になるということを前提にした構想である。教育行政も基礎自治体として30万なり20万のエリアで1つの教育委員会を構成する、そういうことが前提になって、教育委員会制度の話が議論されていると思えなくもない議論の経過だと感じている。小規模市町村というのは相手にしてもらってない。日野郡の教育委員会の広域化という話とその先兵で出てきている。教員人事は西部圏域で1つとしてやっている、そう考えれば教育委員会も無理な話ではない。
	委員	長	経団連が道州制を積極的に進めようとしているのは、経済的なネットがあるということだろうが、どういう考えをもって進めているのか。
	教育	長	日本の企業というのは世界進出の局面にある。ビジネスとして日本ではなかなか成り立たない現実がある。そういう面からいうと、行政の効率化ということも当然いわれる。教育に限らず国と都道府県と市町村という3層を2層にしまえば、もっと効率的に実効性がある無駄の無い、行政機構になっていくという考え方である。
	委員	員	道州制は反対すべきである。地方がもっと声を出さなければならない。
	教育	長	中四国の拠点として岡山が頑張っている話しをしたが、道州制になると考えたときに、日南の地域は基礎自治体の玄関口になってくるということもある。今までなかった可能性というものも出てくる。それを地域としてどういうふうに活性化させるかが重要になってくる。鳥取道開通による智頭の変化が良い例である。

委員	どんなものでも明と暗がある。今言われたことが日本の大半で起こるなら、その施策はすればいいと思うが、だが悪い方が多くなるのではないか。
教育長	基本的には切り捨てになってくると思う。だがその中で新たな投資をされる地域もある。そこにうちが入っていくことは可能性として無くはないと考える。
委員	地域の切捨ては間違いない、これがすんなりいったら地域は完全にだめになってしまうだろうと思う。
教育長	国の借金が多いのは間違いない。どこかで経費を削減していくというか、効率化を目指していかなければならないという考えを国はもっている。税金を払ってくれるのも、経団連を中心とした財界が払っている、これも現実である。
委員	教育委員会は日野郡で1つでいいのではないかと思う。
教育長	3町1つで統合しても人口では大山・琴浦・八頭などの町には届かない。大きなつもりでも、とても小さな話しである。統合の話しをするならば、もっと大きなところでの話しをしなければ、教育の効果は上がらない。
委員	本当は地方に住んだほうが得だという施策を少しずつでも国がやっていき、地方に帰るというスタンスでなければならない。現状としては都会の方が得だということに、あらゆることになっている。
教育長	学校統合の話ばかりではなくて、教育行政のエリアとして考えるということが必要だと思う。その中でも、日野郡だけの話だけでいいのだろうかと考える。
委員	グローバルといわれているが、若い人材を日本に留めることを考えるべきである。グローバルの時代だから、世界に行く方が正しいということが第1になってしまうと、日南町どころか日本中から良い人材が居なくなってしまう。それではいけないのではないか。グローバル教育でも良いが、日本にいて利益を持たすような教育であってほしい。
教育長	地域から人材がどんどん出ているから今の状況がある。ある程度の能力を持った上で、ビジネスとしてチャレンジする、そういう人材を育てなければ、地域は減んでしまう。出て行ける人材を作るということは必要である。